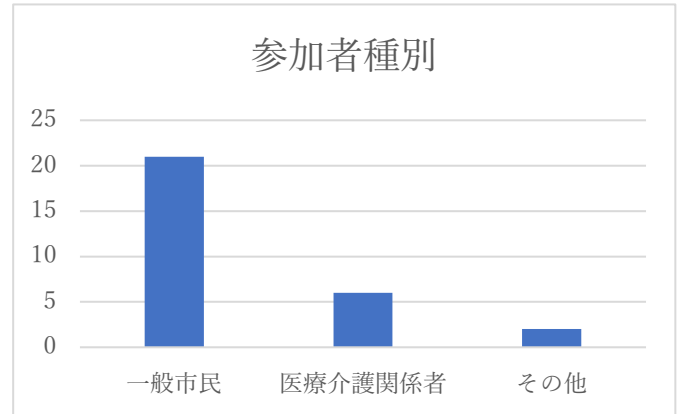
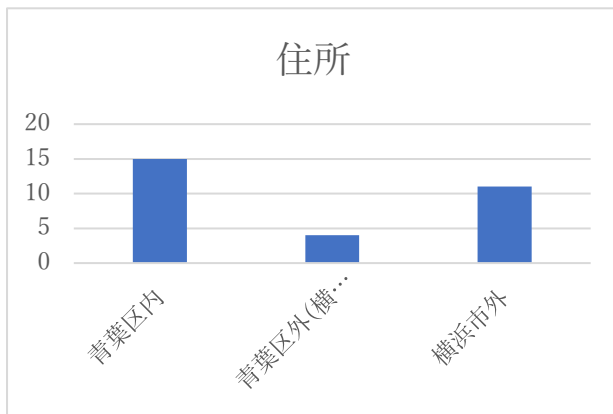
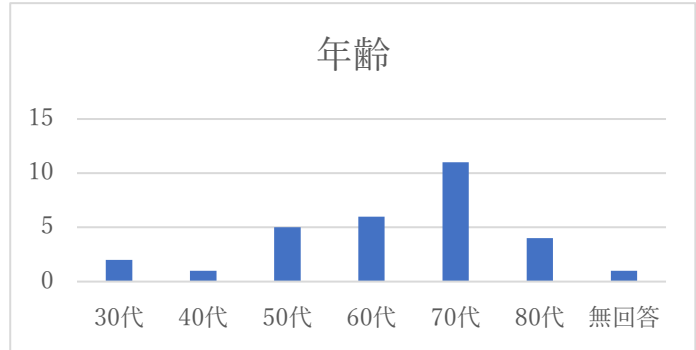
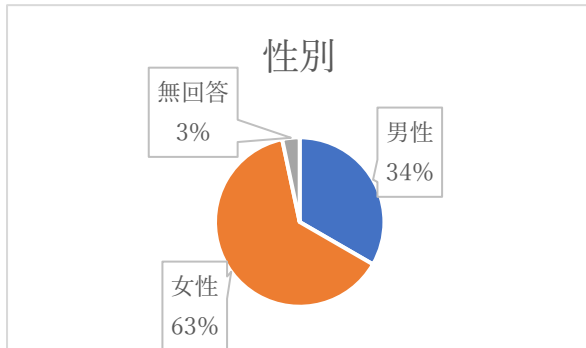


令和5年度 グリーフケアの会「青い鳥」市民向け講演会アンケート結果

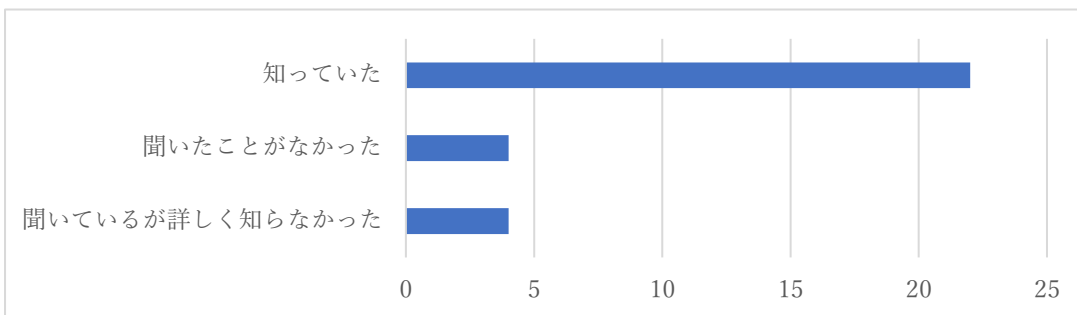
令和6年1月18日 於：アートフォーラムあざみ野レクチャールーム

参加者数 35名 回答者数 30名 回答率 85.7%

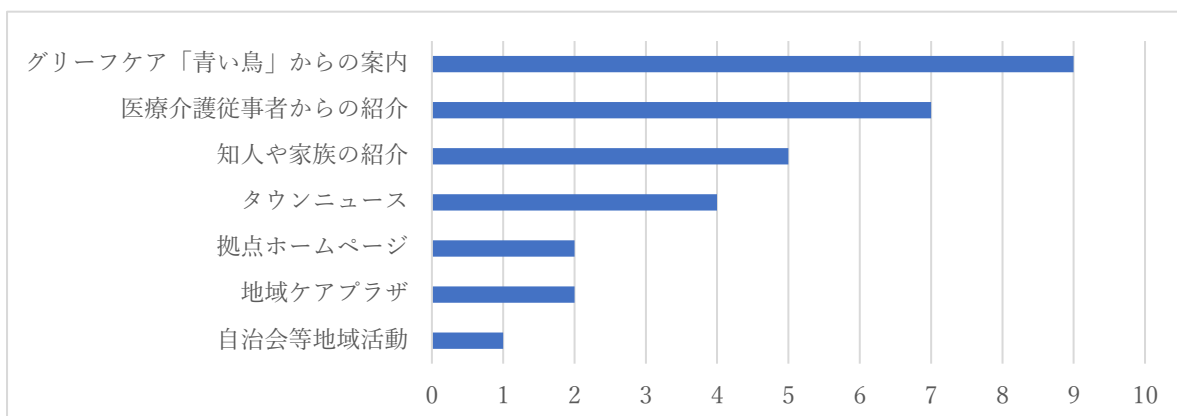
(1) 性別・年齢・住所・種別



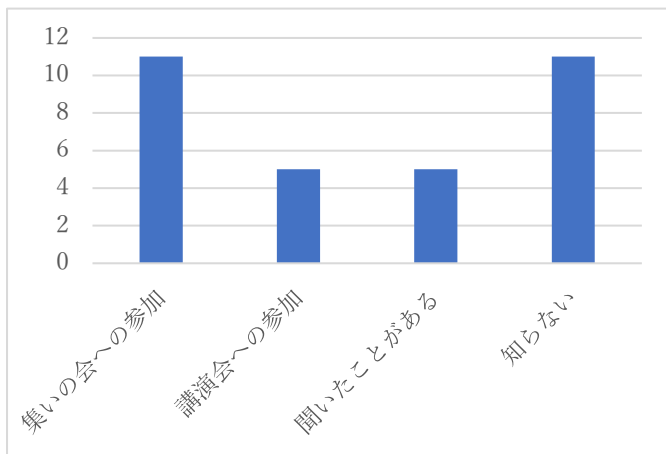
(2) グリーフについてご存知でしたか?



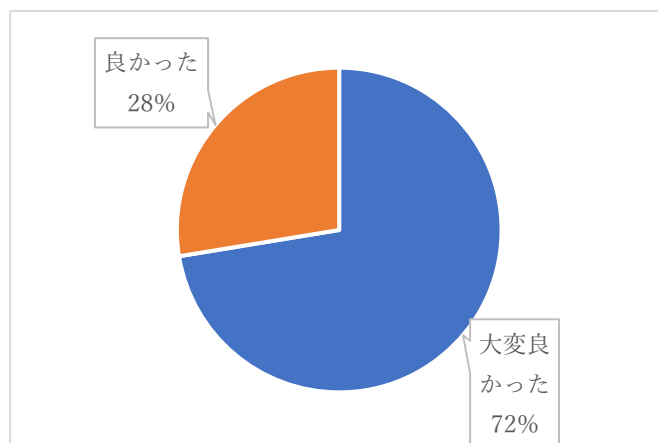
(3) 今回の講演会をどちらでお知りになりましたか(複数回答可)



(4)「グリーフケアの会～青い鳥～」への参加



(5) 本日の講演会はいかがでしたか？



(5) 本日の講演会はいかがでしたか？感想をお聞かせください。 代表的なご意見

- ・ 認知症ケアとの関連が非常に参考になりました。
- ・ 「大切な人を亡くした人のための権利条約」を知った。身近において苦しい時、何度も読み直して、心においておきたいと思います。
- ・ 安心してもいい。そのくらい「一緒に生きるのが大変」だった。という言葉がとても印象に残りました。
- ・ 自身のグリーフのみならず、他の方のケアのあり方についても知ることが出来た。認識を広げることが出来た。ありがとうございました。
- ・ 死別に対する時間の問題「自分は5年もたっているのにまだ！」納得いきました。「喪失志向」と「回復」の間が「ゆらい」でいいのだ！に気づかせてくれた。
- ・ 「ままだ」相手の話を聞くことの大切さを学びました。それと同時に、そのことの難しさを感じます。人の話を聞くときに、いかに自分のジャッジは脇に置き、相手を理解できるか、考えていきたいです。
- ・ 今日は本当にありがとうございました!!救われました。以前よりまして涙することが多くなった自分は変なのか、と思っていた。今日の講演で「侵襲的悲嘆」であり、ゆらぎの中の一つだと教えてもらい、これでいいんだと思えました。又自分が「過活動」なのだと思います。
- ・ 妻を亡くして 4 年。グリーフから立ち直っているのかいないのか。時々ひどく落ち込んだり、でも平日には普通に職場で笑ったりしている自分自身を受け入れなかった。それらの意味に気づくことが出来ました。